

短時間でタイピングを習得させる指導法を考える

高等学校

(情報)

研究の概要

この研究は、7時間程度でひと通りの日本語入力をできるようにするには、どのような指導法や教材を使用すれば、その可能性があるかを研究・実践したものである。

情報の授業において、キーボードによる文字入力は避けて通れないものである。実際に授業をやってみると、予定した授業時間数以内に課題を完成できない生徒が、クラスによっては半数近くになることもある。この1つの原因として、タイピングのスキルの差によるところが大きいことを実感した。

そこで、そのスキルの差を少しでも縮め、一人でも多くの生徒がきちんと両手の指を使い、いわゆるローマ字入力で日本語入力ができるようにならないかを研究することにした。

【キーワード】タイピング、日本語入力、ローマ字入力、キーボード

1 はじめに

(1) 本校の教科「情報」について

本校は平成17年度に、高等学校と高等学校が統合して、の高等学校としてスタートした。当初の教育課程では、必修科目として「情報A」。選択科目として普通教科情報から「情報C」、専門教科情報から「図形と画像の処理」、「マルチメディア表現」、「ネットワークシステム」が開設されていた。

高等学校は専門学科高校だったので、必修の普通教科情報は専門教科で代替しており、平成17年度の開設時から、高等学校校舎での情報の授業が開始された。当初の教育課程は、情報を実際に教える教員がいないうちで決まったため、施設設備の点で開設が難しい科目もあった。

現在では、必修は「情報A」。選択科目は専門教科情報から「図形と画像の処理」と「アルゴリズム」の2科目が設定されている。

(2) 本校生徒の状況について

本校は単位制の高校である。ここ数年定員割れをしており、8割以上の生徒が特色ある入学者選抜による入学者である。そのため、どの教科においても実際に授業が始まってみないと、新入生の能力やスキルがよくわからないという状況にある。

情報については、コンピュータを全く使用したことがないという入学者は稀で、ほぼ全員が小中学校で使用した体験を持っている。また、近年は自分専用のコンピュータを持っているという生徒も2割程度いるようである。家族の所有するコンピュータの使用経験を含めると、約半数の生徒は、家庭にもコンピュータがあるという状況になっている。

ただ、使用している内容は、インターネットでのウェブページ閲覧とネット対戦ゲームがほとんどで、キーボード入力を必要とするアプリケーションソフトを家庭でも利用している生徒は少数派のようだ。

2 研究主題について

(1) 主題設定の理由

ワープロソフトを使用する課題として、著作権関連のレポート作成と、自分の住む町の新聞作りを授業で扱っている。指導時間数の予定を立てて実施してみるものの、どうしても時間内に完成できない生徒がいる。手書きなら間に合うという生徒や、フィールドワークや写真などの素材は集まっているのに、記事が打ち終わらないなど、あきらかにタイピングのスキル不足と思われる生徒も少なくない。

また、本校では総合学科2年生からは、自分の選択した系列に分かれて受ける「総合選択科目」の授業が始まる。その中には商業系列もあり、1年生のときにある程度のスキルを身につけておかないと、2年生になってから苦労することになる。

そのため、正しい指使いでいわゆるローマ字入力による日本語入力を身につけさせたいと考えた。しかしながら、2単位の普通教科「情報A」では時間数にも限りがある。そこで、7～8時間（4週間）程度に集中して学習することにより、身につけさせることはできないかを研究・実践してみることにした。

(2) 研究内容

いわゆるローマ字入力（個人的には、「ローマ字 ローマ字入力」なので「ローマ字入力」「かな入力」ではなく「英字キー入力」「かなキー入力」と表現したいが、一般的な表現なのでそのまま使用する）を、アルファベットを意識することなく、指の動かし方で覚えさせる。

教える際は教員側も、ShiftキーやEnterキーなど、機能を表すキー以外はキーの名前で呼ばずに、すべて使用する指と位置で指示をする。

これにより、比較的短時間（7～8時間）で入力法を生徒に定着させることはできないかを、提出課題ならびに事後アンケート等により検討した。

3 平成21年度入学生の状況

(1) 1年生95名中94名から回収したアンケートは次の通りである。

ア 次の質問に答えて下さい。

	はい	いいえ
カタカナ（アイウエオ～ン）をすべて読むことができる	93	1
カタカナ（アイウエオ～ン）をすべて書くことができる	79	15
アルファベット大文字（ABC～Z）をすべて読むことができる	91	3
アルファベット大文字（ABC～Z）をすべて書くことができる	81	13
アルファベット小文字（abc～z）をすべて読むことができる	87	7
アルファベット小文字（abc～z）をすべて書くことができる	74	20

1文字でも不安なものがあれば「いいえ」にするよう指示をした

イ パーソナルコンピュータにさわったこと・使ったことはありますか。複数回答可

小学校のパソコン	82	自分のパソコン	17
中学校のパソコン	90	インターネットカフェ	11
家族のパソコン	55	図書館や公民館	19
使用経験なし	1		

ウ 使ったことがある人は、どんなことをしましたか。複数回答可

アプリケーション関連	ワープロ 4 1 表計算 2 5 ゲーム 1 6
インターネット関連	ウェブページの閲覧 8 1 ネット対戦ゲーム 4 0 メールの送受信 3 3
その他	C D作成・C Dコピー 2 0 D V D作成・D V Dコピー 4
自由記載より ウェブページの作成，ネットショッピング，音楽ダウンロード	

エ パソコンのキーボード入力は何くらいできますか。

全体で1つか，カナ・ローマ字別に1つで解答

人差し指1本でカナ入力ができる	1 2
片手で指2～3本を使ってカナ入力できる	2 4
きちんとした指使いではないが両手でカナ入力できる	3 2
両手を使って正しいタッチタイピングでカナ入力できる	1
人差し指1本でローマ字入力ができる	1 1
片手で指2～3本を使ってローマ字入力できる	2 0
きちんとした指使いではないが両手でローマ字入力できる	3 1
両手を使って正しいタッチタイピングでローマ字入力できる	0

オ パソコンのキーボード入力は何くらいできるようになりたいですか。

人差し指1本でカナ入力できればよい	1
片手で指2～3本を使ってカナ入力できればよい	6
きちんとした指使いではないが両手でカナ入力できればよい	1 0
両手を使って正しいタッチタイピングでカナ入力できればよい	1 1
人差し指1本でローマ字入力できればよい	0
片手で指2～3本を使ってローマ字入力できればよい	4
きちんとした指使いではないが両手でローマ字入力できればよい	1 7
両手を使って正しいタッチタイピングでローマ字入力できればよい	4 3

(2) アンケート結果から読み取れること

アルファベットの読み書きが完璧にできない生徒が、けっして少なくない。パソコンの使用経験があるとはいえ、インターネットでのウェブページ閲覧以外は、生徒により体験にかなりの差がある。

タイピングのスキルもかなりの開きがあり、目標とするいわゆるローマ字入力がすでに、ほぼできるという生徒もいる。そして、身につけたいスキルとしては、約半数の生徒が正しい指使いでのローマ字入力をあげている。

4 キーボードのタイピング指導を考える

(1) 従来のタイピング指導方法

いろいろな本を参考にしてみるが、どれもホームポジションに指を置き、両人差し指の「F」「J」から順に、キーボードの下から2段目の練習をする。それができるようになったら3段目、4段目のように、段ごとにキーボードを覚えていくという方法が主流のようだ。

(2) 今回のタイピング指導方法

今回は、日本語入力に特化して指導する。そのため、アルファベットを意識せずにひらがなを入力することを最大の目標にする。

つまり、覚えさせるのはキーボードの段ごとではなく、五十音順に「あ」行「か」行・・・の順に習得していくようにする。

ア キーボードを見ないことを強制する。そのために、各自にキーボードを覆うタオルを用意させる。

イ 五十音の運指表を用意し、それに基づいて、指の動かし方ですべての入力方法を説明する。運指表には基本的にアルファベットは記載しない。

ウ ひらがなの入力だけでは飽きが来てしまうので、各回の課題として、簡単な漢字変換を体験させる。確実に漢字変換できるものとしては、都道府県名や市町村名があるが、今回は駅名を使用した教材を作る。

(3) この指導における課題

平成20年度もこれと同様の方法で、タイピングの習得を目指した授業を展開した。このような指導を行うには、教える側にもタッチタイピングができるなどのスキルが要求される。また、このような指導法をとることを、TTの方と十分に話し合い、理解し合う必要がある。

平成20年度は、TTの先生がクラスにより違い、その方たちは情報の免許所有者ではなかった。また、タイピングのスキルも十分ではなかった。そのため、事前に相談・打合せはしたものの、生徒からの質問に「キーの名前」で答えてしまうことが多く、どうしてもその効果を十分に見ることはできなかった。

(生徒の質問)「さ」ってどう打つのですか

(予定の返答)「左手の薬指、次に左手小指」

(実際の返答)「S」と「A」を押す

やはり、「キーの名前」で教えてしまうと、生徒はせっかくキーボードを隠しているタオルを外して、キーを見ながらタイピングするようになってしまう。昨年度は、教える側のスキルにも課題があり、なかなか思った通りの成果を見ることができなかった。

平成21年度は、全クラス同じ方にTTに入ってもらった。その方も情報の免許を持ち、タイピングのスキルもあるので、事前に十分話し合った上で、「キーの名前」を言わずに指とその動かし方で教える方法を徹底して指導することにした。

5 学習指導計画（全8時間：2単位で4週間）

50分の授業を前後半25分ずつに分け、25分で1つの行を習得するようにした。説明と入力練習10分、各行の課題入力15分の時間配分で行った。課題入力が10分以内で終わった生徒には、追加の入力課題を与えた。

全8時間の内容は次の通りである。

- 1時間目 キーボードおよびホームポジションの説明と「あ」行の練習をする
- 2時間目 「か」行と「さ」行の練習をする
- 3時間目 「た」行と「な」行の練習、変換の区切りを変更する方法についての説明する
- 4時間目 「は」行「フ」行と「ま」行の練習をする
- 5時間目 「や」行と「ら」行の練習をする
「や」行については「や」「い」「ゆ」「いえ」「よ」すべて練習する
- 6時間目 「わ」行「ん」と「が」「ざ」「だ」「ば」行の練習をする
「わ」行については「わ」「うい」「う」「うえ」「を」すべて練習する
- 7時間目 「ぱ」行「っ」と「ゃ」「い」「ゆ」「え」「よ」「じ」行の練習をする
「きゃ」行であれば「きゃ」「きい」「きゆ」「きえ」「きよ」すべて練習する
- 8時間目 「ー」「、」「。」「・」とP検タイピングを使用しての文章入力体験をする



図1 毎時間の各行ごとの課題に取り組んでいるところ（残念ながら離脱者もいます）

参考資料1 最初に配るタイピングの運指表

確定 変換		いわゆるローマ字入力による日本語の入力方法をおぼえよう(1)				
		右手小指を伸ばして[ENTER] 親指を下に伸ばして[スペース] または 右手親指を下に伸ばして[変換]				
		あと				
1~2回の タッチで入力 できる文字		あ	い	う	え	お
		左 子	右 中	右 人	左 中	右 薬
さき						
か 行	右 中	か	き	く	け	こ
さ 行	左 薬	さ	し	す	せ	そ
た 行	左 人	た	ち	つ	て	と
な 行	右 人	な	に	ぬ	ね	の
は 行	右 人	は	ひ	ふ	へ	ほ
ま 行	右 人	ま	み	む	め	も
や 行	右 人	や	い	ゆ	いえ	よ
ら 行	左 人	ら	り	る	れ	ろ
わ 行	左 薬	わ	うい	う	うえ	を
が 行	左 人	が	ぎ	ぐ	げ	ご
ざ 行	左 子	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ 行	左 中	だ	ぢ	づ	で	ど
ば 行	左 人	ば	び	ぶ	べ	ぼ
ぱ 行	右 子	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
F 行	左 人	ふぁ	ふぃ	ふ	ふぇ	ふぉ
J 行	右 人	じゃ	じ	じゅ	じえ	じょ
ん	右 人	を2回押す				

もう1枚、3回のキータッチで入力できる文字を一覧にした(2)がある。これをA4用紙の両面に印刷して、生徒一人ひとりに配布してある。

参考資料2 3時間目「な」行の練習課題プリント

情報A 50音の入力練習 No. 5	実施月日 月 日																				
<p>準備</p> <p>「あ」～「の」のローマ字入力が、目をつぶってもできるようになるまで、練習しなさい。3回間違わずに打てるようになったら、課題に入りますので、画面の文字をすべて消去(deleteキーまたはBackspaceキー)しなさい。</p>																					
<p>課題1</p> <p>あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねの あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねの あいうえおかきくけこさしすせそたちつてとなにぬねの</p> <p style="text-align: center;">「の」まで打ったら、右手小指でエンターキーを押し確定させる</p>																					
<p>課題2</p> <p>次の鉄道の駅名(太字の部分だけ)を正しく入力・変換しなさい。(あ～な行)</p> <p>「変換」は親指でスペースキーを、正しい漢字が出るまで押しなさい。今回は数字キーは使わないこと。印が変換が途中で切れてしまったときは次を参考に!</p> <p style="text-align: center;">ないえ <u>内え</u> [左手の小指でShiftを押し、右手の小指で <u>を</u>を押す] <u>ないえ</u> 変換する 全部太線</p>																					
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">(1) 奈井江[ないえ]函館本線</td> <td style="width: 50%;">(11) 市ノ瀬[いちのせ]身延線</td> </tr> <tr> <td>(2) 直江津[なおえつ]信越本線</td> <td>(12) 居能[いのう]宇部線</td> </tr> <tr> <td>(3) 西明石[にしあかし]山陽新幹線</td> <td>(13) 伊納[いのう]函館本線</td> </tr> <tr> <td>(4) 温田[ぬくた]飯田線</td> <td>(14) 宇野気[うのけ]七尾線</td> </tr> <tr> <td>(5) 根雨[ねう]伯備線</td> <td>(15) 大貫[おおぬき]内房線</td> </tr> <tr> <td>(6) 能生[のう]北陸本線</td> <td>(16) 於札内[おさつない]札沼線</td> </tr> <tr> <td>(7) 野馳[のち]芸備線</td> <td>(17) 小奴可[おぬか]芸備線</td> </tr> <tr> <td>(8) 野々口[ののくち]津山線</td> <td>(18) 蟹田[かにた]津軽線</td> </tr> <tr> <td>(9) 信濃浅野[しなのあさの]飯山線</td> <td>(19) 鬼無[きなし]予讃線</td> </tr> <tr> <td>(10) 池谷[いけのたに]高德線</td> <td>(20) 九重[ここのえ]内房線</td> </tr> </table>		(1) 奈井江[ないえ]函館本線	(11) 市ノ瀬[いちのせ]身延線	(2) 直江津[なおえつ]信越本線	(12) 居能[いのう]宇部線	(3) 西明石[にしあかし]山陽新幹線	(13) 伊納[いのう]函館本線	(4) 温田[ぬくた]飯田線	(14) 宇野気[うのけ]七尾線	(5) 根雨[ねう]伯備線	(15) 大貫[おおぬき]内房線	(6) 能生[のう]北陸本線	(16) 於札内[おさつない]札沼線	(7) 野馳[のち]芸備線	(17) 小奴可[おぬか]芸備線	(8) 野々口[ののくち]津山線	(18) 蟹田[かにた]津軽線	(9) 信濃浅野[しなのあさの]飯山線	(19) 鬼無[きなし]予讃線	(10) 池谷[いけのたに]高德線	(20) 九重[ここのえ]内房線
(1) 奈井江[ないえ]函館本線	(11) 市ノ瀬[いちのせ]身延線																				
(2) 直江津[なおえつ]信越本線	(12) 居能[いのう]宇部線																				
(3) 西明石[にしあかし]山陽新幹線	(13) 伊納[いのう]函館本線																				
(4) 温田[ぬくた]飯田線	(14) 宇野気[うのけ]七尾線																				
(5) 根雨[ねう]伯備線	(15) 大貫[おおぬき]内房線																				
(6) 能生[のう]北陸本線	(16) 於札内[おさつない]札沼線																				
(7) 野馳[のち]芸備線	(17) 小奴可[おぬか]芸備線																				
(8) 野々口[ののくち]津山線	(18) 蟹田[かにた]津軽線																				
(9) 信濃浅野[しなのあさの]飯山線	(19) 鬼無[きなし]予讃線																				
(10) 池谷[いけのたに]高德線	(20) 九重[ここのえ]内房線																				
<p>ここまでできたら、タオルをとってもいいです。一番下に、自分のクラス番号氏名を記入してください。氏名は「ひらがな」でも漢字でもいいです。また手書きでもいいです。</p>																					
<p>保存</p> <p>できあがったら、自分のフォルダに保存しなさい。</p> <p>オフィスボタン 名前を付けて保存 自分のフォルダ</p> <p>ファイル名に「type05」と入力する</p>																					

各行とも18～20題の練習課題を15分の制限時間に取り組ませる。10分以内に終わった生徒には追加の課題を与える。15分で終わらなかった生徒は、その段階までを印刷・保存。

6 具体的な授業の進め方

(1) キーボードを見なくても文字が打てることを実感させる

「私はキーボードを見なくても、きちんと文字が打てるんだ。」ということを実感させるのが、タッチタイピング習得の第一歩だと考える。たとえ何文字かでも、キーボードを見ないで文字が打てたという事実は、その生徒に大きな自信となっているようだ。そして、それが以降のタイピング練習のやる気にもつながっている。

そのため、1時間目は「あ」行の5文字を徹底的にくり返し練習させる。最初は、指示に従って一斉にタイピングを行うことから始める。

ア キーボードの上にタオルを置いて、キーボードを隠してごらん。

イ タオルの下に手を入れて、人差し指で出っ張りのあるキーをさがしてごらん。見つかったらそこに人差し指を載せて、順に隣のキーに中指、薬指、小指と載せてごらん。

(キーボードを見ないでも、ホームポジションをとれることを体験させる)

ウ それじゃ一緒に、左手の小指を1回押す。画面に「あ」って出たかい。

(キーボードを見ないでも、「あ」が打てることを実感させる)

エ 次に、右手の中指をそっと伸ばして、1回押してごらん。

オ 次に、右手の人差し指をそっと伸ばして、1回押してごらん。

カ 次はちょっと難しいけれど、左手の中指をそっと伸ばして1回押してごらん。

キ 最後に右手の薬指を上を伸ばすけど、薬指だけ動かすのが難しい人は、中指と薬指一緒に上に伸ばす。そして薬指だけ1回押してごらん。

このような助言をしながら、一斉にタイピングをすることで、キーボードを見ないでも「あ」行の文字入力ができるという体験をさせる。

その後、自由練習として「あ」行を練習させる。逆打ち「おえういあ」や1つ飛ばし「あうお」など、センターモニタでいろいろな打ち方を提示して、やっごらんとして生徒に挑戦させる。

(2) 「な」行を乗り越えさせる

50音のタイピング練習で、最初の難関が「な」行になる。この「な」行で初めて、ホームポジションより下の段のキーを使用することになる。

指を下げるという表現は、実はあまり実態にあっていない。実際に自分でやってみると「斜め下に伸ばす」「曲げる」といった動作で下の段のキーを打っていることに気づく。

また、「な」行も「ま」行も同じ右手の人差し指を使用する。この違いを簡単に覚えさせることで、比較的難しい下段のタイピングを、間違いなくできるように指導する。

ア 「な」行はななめ、「ま」行はまげる。

(同じ指を下げるのでも、下げ方が違うということをイメージさせる)

イ 「や」行はよりみち、「う」の左

(慣れないと、なかなかいっぺんにYまで指が伸びない。そこで、いったんUに寄り道してそこから左にずらすことで、確実に「や」行のYにたどり着くとイメージさせる)

このような語呂合わせをいくつか考えて、運指をイメージしやすくしている。

7 7時間の授業が終わって

予定された8時間のうち7時間、計13回のタイピング練習が終わったところで、事後アンケートを実施した。回収できたのは、1年生95名中91名だった。

(1) あなたは授業で7時間全13回のタイピング練習をして、どの程度日本語がローマ字入力できるようになりましたか。

正しい指使いですべて(あ~わ, ん, が~)打てるようになった 29人

自由記載欄から

- ・だいたいみないで打てるけど、たまにあやしいところがある。
- ・初めはできなかったけど、きちんと打てるようになった。
- ・手元をみないで打てるようになった。
- ・「が」行から先はまだ少し不安がある。

正しい指使いで50音(あ~わ, ん)は打てるようになった 28人

自由記載欄から

- ・前から打っていたけど、さらに見なくても打てるようになった。
- ・濁点や「ゃ」などが入ってきたら、少しあきらめてしまった。
- ・濁点の行はできる行とできない行がある。
- ・「が」行から先はキーボードを見ないと打てない。

指使いは正しくないが、とりあえず両手で打てるようになった 30人

自由記載欄から

- ・タオルで隠して両手で打てるようになった。
- ・なんとかわかってきている。
- ・微妙に正しくない。「ま」行までなら大丈夫。

まだ片手でしか入力できない 4人

自由記載欄から

- ・指使いが難しい。
- ・前より打つのが早くなってはいる。
- ・何度やっても位置が覚えられない

(2) あなたは授業でタイピング練習をして、練習する前にくらべて上達したと思いますか。

上達した 86人

- ・正しい指使いを覚えた。 38人
- ・文字を打つ速度が速くなった。 39人
- ・ローマ字入力で打てる文字の種類(いえ, ふぁ, ディなど)が増えた 26人

その他自由記載欄から

- ・人差し指だけだったのが、全部の指を使って打てるようになった。
- ・キーボードを見て確かめて打っていたのが、見ないで打てるようになった。
- ・ローマ字が全然わからなかったけど、わかるようになってスラスラ打てるようになった。
- ・今まで覚える気がなかったけど、ちゃんとできるようになった。
- ・画面から目を離さなくても、文字が打てるようになった。

変化なし 13人

・もともと文字を打つのが速かったから 4人

その他自由記載欄から

- ・不器用だから。
- ・正しい指使いだと打つのが遅くなってしまったから。
- ・指使いが変わって自己流の時よりやりにくくなってしまった。

下手になった 2名

自由記載欄から

- ・自己流の時の方がずっと速く打てた。

上記は、あくまでも生徒が感じている主観的な判断、感想です。

8 全8時間の授業が終わって

8時間目は、カタカナの長音「ー」や文章を打つための句点、読点の入力方法（運指）を教えた。これで特殊なカタカナ表記を除いて、基本的な日本語入力のいわゆるローマ字入力による運指の指導を終了した。

それに基づいて、実際にどれくらいのタイピングができるのかを、P検タイピングを使用して記録を取ってみた。

P検タイピングとは

パソコン検定協会が実施している「P検」の中のタイピングテストだけを取りだしたものの。インターネットから練習ソフトがダウンロードできる。

画面に表示された文章を入力する。変換の必要はないため、単純に文字を入力することに集中できる。また、ローマ字入力を選択すると、アルファベットによる読み方ガイドが表示されるので、もしも漢字の読み方がわからなくても、それをヒントに入力を続けることができる。

コンピュータの内蔵時計を使用して、開始から5分経過すると自動的に終了し、入力文字数を表示してくれる。

実際の検定試験では、準2級から4級でタイピングテストが実施される。合格基準は日本語入力の場合、準2級375文字以上、3級300文字以上、4級225文字以上となっている。

ほぼ全員、P検タイピングを使うのは初めてであった。そのような状態で、今まで練習したタイピングの成果が果たしてどの程度であるのか、不安はあったが実施してみることにした。

初めてだったため、記録を取る前に終了ボタンを押してしまい、表示が消去され記録できなかった生徒が出てしまった。集まったデータは85人とどまったが、その結果は次のグラフの通りである。

なお、生徒85人の入力文字数は最少50、最多475、平均199.8文字（1文字あたり約1.5秒）だった。

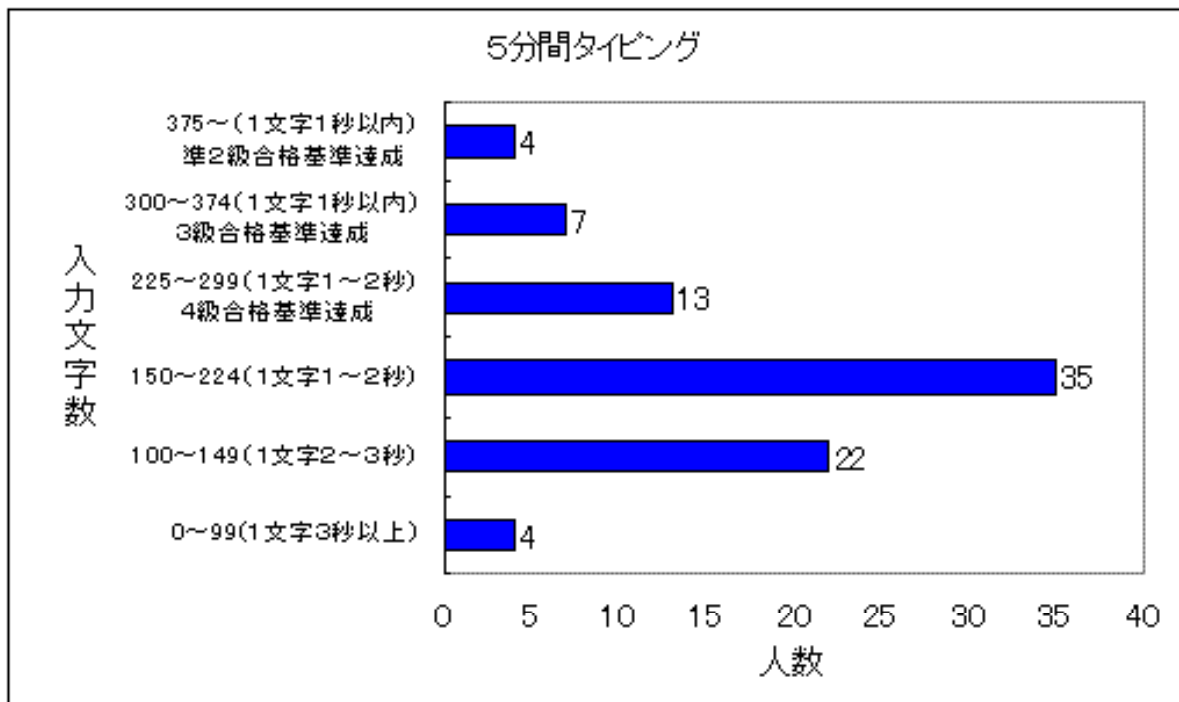


図2 P検タイピング(5分間)の入力文字数

9 集めたデータから考えること

今回、このような指導法で日本語入力に挑戦した結果、生徒へのアンケートでは95人中29人が正しい指使いでローマ字入力できるようになったと答えている。率にすると30.5%に達する。しかし、これはあくまでも自主申告である。

例年10～15%の達成率であることを考えると、指導している私たちから見てもちょっと過大申告のような気がする。生徒の入力状況を観察していると、せいぜい各クラス4～6人で4クラス合計20人程度が、当初の目標達成数ではないかと思われる。それでも例年よりは多くの生徒が、いわゆるローマ字入力による日本語入力を習得したことは違いない。

そこで、タイピング練習のまとめを兼ねて、タイピング練習の直後に行う著作権に関する学習の最後に、各自レポートをワープロで作成するという課題に取り組んだ。

著作権学習(3時間)

- ・何も学習しない段階で、著作権に関する ×クイズに答える。
- ・(社)日本著作権情報センターから借りたビデオを視聴する。
- ・著作権関連の冊子を配布する。 ×クイズについての解答と解説をする。
- ・「自分が知らずにやっていた著作権法違反とこれから気をつけること」または「文化祭に参加する際に著作権に関して気をつけなければいけないこと」のどちらかの題材で、A4用紙1枚のレポートをワープロで作成する。

まだまだ、満足する結果とはいえないものの、このレポート課題においては、昨年よりスムーズに授業を進めることができたのは事実である。とくに促音「っ」の入力やハードディスクの「ディ」(DHIと入力)の入力などの質問が大幅に減った。「ローマ字 ローマ字入力である、だから指使いで覚えよう」と強調した指導が、生徒に少しは浸透した結果だと思われる。レポート

作成時に、自分で運指表を見て入力方法を調べている生徒を散見することができたのも、昨年までとは違うことだった。

昨年と今年度の生徒は同一ではないので、単純には比較できないものの、このような結果を出せたことには次のような要因があると思われる。

- ・担当する指導者全員がタイピングのスキルをある程度持っていたこと。
- ・指導方法を事前に相談して、「キーの名前」(キートップのアルファベット)を言わない運指による指導を徹底したこと。
- ・タオルを外してしまおうとする生徒に、たえず「もう少しがんばろう」と声をかけ、離脱者を極力少なくしたこと。

やはり指導者のスキルが、この指導方法にはかなり影響するということを実感した。昨年とやり方を大きく変えたわけではない。それにもかかわらず、昨年より大きな成果を上げたことは、最初に立てた方針と指導法を、徹底して守ることができたからだと思う。

そのためには、指導する者がいわゆるローマ字入力によるタッチタイピングをマスターしていることが最低限の条件になる。今年度は、この条件に恵まれたことにより、研究テーマに沿った形で授業実践をすることができた。

また、タオルを外してしまう生徒への声かけをして、極力離脱生徒を減らしたのも要因の1つと考えられる。離脱する生徒が増えると、タオルで隠して取り組んでいる生徒が、がんばって覚えようという意欲よりも、キーボードを見て楽をしたいという気持ちに流れてしまいがちになる。その結果、タイピングを覚えるという当初の目標から、課題を提出するという行為だけを追うようになってしまい、当初の目標が達成できなかったのが昨年までの実情だった。

10 今後の展開

今回取り組んだのは、日本語入力だけである。アルファベットの入力はどうするのかというと、まだ授業の中では取り組んでいない。また、カタカナ特有の「V」行(ヴァヴィヴヴェヴォ)も触れることはなかった。しかし、これらの入力は、しっかりと運指を覚えていれば、それほど苦勞せずに入力できるようになるのではないかと考えている。

(1) 逆引きローマ字入力でアルファベットを入力する

「A」は「あ」のキー、「B」は「ば」行のキー・・・、と「ひらがな」から関連するアルファベットのキーを覚えていくことは、それほど難しいことではないと考えている。

いわゆるローマ字入力で使わなかったアルファベットは、26文字中5文字(C, L, Q, V, X)だけ。さらに、「V」行、「L」行または「X」行(あいうえお)も説明するとすれば、実質3文字追加するだけで、すべてのアルファベットの入力ができる。

この程度の追加であれば、運指による日本語入力がきちんとできるようになっていれば、それほどの障害とはならないであろうと考える。

(2) ローマ字を知らない人にもいわゆるローマ字入力を指導できる可能性がある

新学習指導要領が実施されると、高校の共通教科情報(現普通教科情報)も大きく変わるこ

とになる。今回研究したような内容は、すでに中学校までに習得してくる内容になっているようである。

しかしながら、小学校、中学校のコンピュータ教育では、日本語入力をローマ字入力で実施するだろうか。聞くところによると、小学校ではローマ字教育と併せてキーボード入力指導をしている学校もあるという。ただ、これではローマ字を知らないとローマ字入力ができない。「ローマ字=ローマ字入力」という図式になってしまう。ローマ字では「ディ」を「DHI」とは教えないだろう。また「きゃ」を「き」と「ゃ」に分けてローマ字入力するようでは、かな入力よりもキータッチが増えてしまい、ローマ字入力をする魅力が半減してしまう。

実際は、キートップを見てかなを拾って打つ「カナ入力」もかなり残るのではと思う。それなのに、高校に入学したら「ローマ字入力」にしなさいというのは、生徒にとってはなかなか難しいことだろう。とくに、いったん慣れてしまったものを別のやり方に変えるというのは、知らないものを一から覚えるより大変なことだ。

ゲームセンターのビデオゲームには、ジョイスティックという入力装置が付いている。これは、スティックを倒した方向にキャラクターが移動するというものだった。ところが、ある格闘技ゲームから、それではなくなった。円形に動かすとか、Z字に動かすとか、ある特定の動かし方をすると、移動ではなくある特定の技を行うということに使われるようになった。

やってみるのだが、これがなかなか難しいもので、思った通りの技が出せないのだ。もちろんジョイスティックには、どのように動かしたらどんな技が出るとも書かれていない。ところが、小さな子供がわけもなくこれらの技を連発しているのだ。肝心なことは説明書きを機器に書いておくことではなく、その機器の動かし方を知っているかどうか、その通りに動かせるかどうかということなのだ。

今回の運指によるいわゆるローマ字入力は、このことと似ていると思っている。キートップに何が書かれているかではなく、どの指をどう動かしたら何という文字が出るのかを覚えるということが、この入力方法の結論だからだ。

もし小学生がゲーム感覚でこの入力方法を習得してくれれば、結果として高校に入学する頃には、ローマ字入力で日本語もアルファベットもきちんとタッチタイピングできるようになっているのではないかと思っている。もちろん、今回の研究のように7～8時間でできるようになるとは思っていない。もっと時間がかかるだろうけれども。

(3) こんな用具があればいいのだが

今回のタイピング練習をしていると、1つ困ったことが起こった。タオルを手の上に掛けてタイピングをしていると、だんだんタオルがずれてきて、キーと指の間にタオルが入ってきてしまうのだ。当然、ミスタッチが多くなるから、タオルをいったんキーボードの上に掛け直して、その中に手を入れてホームポジションに指を置くところからやり直さなければならない。実際にやってみると、これがけっこう面倒なのだ。

そこで、キートップに何も書かれていないキーボードがあればいいのだがと思う。ただし、これは入力練習以外での利用価値が低いから、実際にあったとしてもコンピュータ40台分そろえて、取り替えながら使うことは、保管場所や予算の面で無理だろう。

それならば、キーボードカバーはどうだろうか。通常のソフトタイプのキーボードカバーは、キーボード内に埃が入らないように、透明の樹脂製でカバーの上からキーが押せるようになって

ている。この透明を黒などの濃色にして、キートップが見えないようにしたものがあれば、是非使ってみたいと考える。タイピング練習のときだけキーボードにかぶせて使えば、タオルを手の上に掛けるよりも、より効果的に練習ができるのではと思う。

1 1 参考資料

情報Aの教科書（東京書籍，実教出版，ほか各社）

Touch - Typing http://homepage2.nifty.com/m_iwata/

交通会社の時刻表 昭和62年4月号付録 あいうえお順日本の鉄道全駅一覧

ウィキペディア 日本の鉄道駅一覧

P検公式サイト <http://www.pken.com>